

『医事撥乱解』について

和田耕作

『医事撥乱解』なる書物が、早稲田大学図書館に所蔵されていることは、『国書総目録』に見うけられるが、この現物についての紹介は、いまだなされていないように思う。

このたび、これを閲覧する機会を得ることができたので、ここに報告したい。

『医事撥乱解』は、一冊（表紙共で四十二丁）の写本である。表紙に「医事撥乱解 全」とあり、また「溪逸人著」と巻頭に記されている。『国書総目録』には、「国溪逸人」の著とあるが、実物を見てみると、「国」と読まれている一字分は大きな黒丸で塗り潰されており、判読はできない。したがって、「溪逸人著」としておく。

本書は、題名から見ても、山県大弑（一七二五～一七六七）の『医事撥乱』となんらかの密接な関係があるのではない

かと想像される。

ところで、安西安周やすやすは『日本儒医研究』（昭和十八年）の中で、『医事撥乱』の完全本（両全文庫本・山形大弑の自筆稿本・宝暦十一年序）を紹介している。そして、この完全本から主要な章を選び再編集して刊行されたものが、多数知られている『柳莊先生医事撥乱正篇』（明和二年刊）であることを明らかにしている。

『医事撥乱解』の内容をしてみると、安西安周が紹介している両全文庫本の章名と完全に一致し、また、『柳莊先生医事撥乱正篇』の内容とも全く一致している。したがって、これは、『医事撥乱』完全本の写本であることが判明した。ただし、両全文庫本にある大弑の自序はない。

ではなぜ、山県大弑の著者である『医事撥乱』が、このように、書名を改題され、著者名（大弑の名）を隠され、序文が除かれているのであろうか。それは写本当時の時代的狀況と山県大弑の思想とを考えれば、当然のことといえるよう。

さて、安西安周が紹介した極めて貴重な両全文庫本『医事撥乱』の所在は、現在明らかなのであろうか。

いずれにしても、『医事撥乱』完全本の写本である『医事撥乱解』の資料的価値は大きいといえよう。今後、大式の医学について論ずるには、部分刊本の『柳荘先生医事撥乱正篇』ではなく、この完全本によるべきであろう。

なお、山県大式の医学論については、『医事撥乱解』の本文を十分に検討し、別の機会に報告することとしたい。

(医学書院)

「三伯稻荷神社」について

森 納

「近代日本の医学」(阿知波五郎著、昭和五七年)に阿知波先生が鳥取市川端三丁目の稲村三伯の生誕地を訪れられ、生誕之碑、略歴を書いた案内板を見た記事を載せておられる。その記事に『驚いたことには「三伯稲村神社」があったことである』として書かれている。また更に「医学史点描」(阿知波五郎著、昭和六一年)に『川端町三丁目の稲村三伯生誕地を訪ねる。近所の人もよく知らない。やっとみつかったのは「三伯稲荷神社」という祠である。三伯がお稲荷さんになっているのには驚いた。そのお稲荷さんの入口に等身大よりやや大きい「稲村三伯先生生誕之地」の石の指標が立っていて、その反対側に、ペンキ塗りの「稲村三伯先生略歴」がかかっている』と述べられている。

そこで地元の方としてこの「三伯稲荷神社」の存在の有無を調査した。「稲村三伯生誕之地」の石碑は確かに鳥取